

リンゴ栽培の経済的特徴と低コスト化への課題

福島県農業試験場経営部・平成8～10年度春夏作試験成績概要

1 部門名 果樹ーリンゴーその他 04-01-99000000

2 要旨

リンゴ栽培の低コスト化を目標に、福島市の8戸の栽培農家を対象に面接調査を行った。調査農家のリンゴ栽培面積は平均124a(最大345a、最小54a)であった。

(1) 調査農家におけるリンゴ栽培の10aあたり費用合計は平均190千円(最大273千円、最小120千円)であった。そのうち、防除費(平均59千円)、支払労働費(平均54千円)が6割を占め、これらの費用を削減することが低コスト化への課題である。

(2) 10aあたりの総労働時間は平均259時間であった。特に、脚立が必要な高所作業となる整枝・剪定、受粉・摘果、着色管理、収穫・調製作業が総労働時間の8割以上を占めた。また、果樹栽培面積が2ha以上の大規模農家では、雇用労働力が総労働時間の4割を占め、雇用に依存していることが明らかになった。雇用労働者が従事する主な作業は、受粉・摘果、着色管理、収穫・調製であるが、安全性の点から(雇用)女性を高所作業に従事させることは少ないとの意見があった。

(3) 最高着果位置が4.3mのマルバ標準区、3.0mのわい化台木区、2.3mのマルバ低樹高区において、タイムスタディにより収穫作業時間を調査した結果、全て地上からの作業が可能なマルバ低樹高区では収穫作業能率が1.98秒/個で、脚立上の作業が7割以上を占めるマルバ標準区(3.65秒/個)とわい化台木区(3.78秒/個)に比較して半減した。

(4) 以上のことから、脚立を使用しない低樹高栽培は大幅な省力効果と作業の安全性確保が可能となり、支払労賃の削減や雇用労働力の従事作業の範囲拡大が期待でき、今後さらに推進すべき技術と考えられた